

【特徴】

当センター形成外科は、全国的に珍しく、一施設で形成外科対象疾患が殆どすべて集まる施設である。このため、1年間で専門医試験に必要な手術症例をすべて経験できる。その中で頭蓋顔面外科を特に専門性を持たせ臨床及び研究に取り組んでいる。臨床面では、豊富な手術症例をもとに実践を中心に形成外科に必要な手技・診断・方針の指導を行なっている。研究面では、倫理委員会の認可のもと自家培養軟骨の臨床応用、唇裂口蓋裂・狭頭症の治療方法に対する臨床研究を積極的に行い、高度先進医療の充実を目指している。

【研修目標】

1. 行動目標

- (1) 形成外科の基本手技を指導医のもとに習得および再確認する。
形成外科的処置、創部固定法、無菌操作、切開法、形成外科的縫合法、
簡単な腫瘍の切除、熱傷のデブリーマン、レーザー
- (2) 形成外科疾患の現症を正確に把握でき、手術適応を決める。
- (3) 全身状態の把握、術後の全身管理を習得する。
- (4) 形成外科領域の検査（耳介計測・眼球位置計測・頭蓋形態の計測など）の習得。
- (5) 初診患者の対応が単独でき、適切な説明ができる。
- (6) 外来処置が単独で可能になる。
- (7) 形成外科手術の術前計画を適切に行うことができる。
- (8) 形成外科手術、病状について適切な説明を患者と家族にできる。
- (9) 全身状態の把握、術後の全身管理を単独で行える。
- (10) 他科よりのコンサルトに対し、的確な返事ができる。
- (11) 形成外科の基本的手術手技を体得する。
デルマトームによる採皮、骨・軟骨採取（腸骨・肋軟骨・耳介軟骨・頭蓋骨など）、
簡単な皮弁の挙上
- (12) 外来小手術を単独で執刀する。
母斑・皮膚良性腫瘍・簡単な瘢痕・リンパ節生検など
- (13) 簡単な手術の計画がたてられ、手術のデザインが可能となる。
- (14) すべての手術について術後管理および外来で後療法が単独でできる。
- (15) 他施設と共同での基礎研究や臨床に参加する。

【方略】

〔レジデント〕

- (1) 患者の臨床所見・環境などを的確に判断し、術式・治療方針を決定する能力を身につける。
- (2) 基本的手術手技を疾患毎に的確に適応を判断する。
- (3) 疾患の現象を主観的にシェーマを用いて診療録に記載ができ、評価できる。
- (4) 国内学会で発表を行うと同時に論文作成を行う。
- (5) 国際学会で発表し、英文論文の作成を行う。

〔シニアレジデント〕

- (1) 高度な手術を単独で計画し、執刀できるようになる。
唇顎口蓋裂、小耳症、頭蓋顔面骨の先天異常、頭頸部再建、マイクロサージェリー
- (2) 他科との共同手術を単独で計画および手術加療ができる。
- (3) 専門医試験に合格し、専門医になる。

- (4) 単独で外来を持ち、一人の患者を最初から最後まで加療できるようになる。
- (5) 希望があれば、形成外科専門領域の中でもスペシャリスト（頭蓋顔面外科医、微小血管外科医）になる教育を行う。この研修は、他施設への出向を含めて行うことがある。

【評価】

上記の行動目標について、自己評価を行うとともにカンファレンスごとに指導および評価を受ける。また、指導者から定期的に評価を受ける。

【研修プログラム】

1年目～3年目（卒後3～5年目）

総合医療センター形成外科にて研修。

手術室・外来・病棟・実験研究室にて指導を行う。

【見学等問い合わせ先】

形成外科部長 今井 啓介